

新 鑄

椿 說 弓 張 用

續 編
卷 三

13
2945
15



門へ13
2945
巻15

昭和九年
七月九日
購末

鎮西八郡 椿説弓張月續編卷之三
為朝外傳

東都 曲亭主人編次

吉野
大田屋
第三十五回

真鶴 孝烈 北谷へ赴く
國典 勇敢 阿公が拉ぐ

毛國典ハ寧王女廉夫人を練すわがせぬ。び首里の王宮へ
ありて真鶴が忠孝が詳みせえぬ。彼がり。我とせん。子を請
ちりし。尚寧王これを父とぬく。嘆賞。これ寧王女を扱ふ
とく。あひける。ハ民の父母として。これを救ふ。はさけ。はさ。あくれ
ども。王女と既。中城と稱せられ。る。世子。今彼を害して。
國の患。除ん。ハ臂をりて。兩を避る。が。後世の議論を脱。難
くて。不徳の君とい。る。べ。小司馬順徳が。女兒真鶴と。や。ん。這般

春説弓張月續編卷之三

春公元長月



阿公北谷
水神



林記石別月續篇卷之三

願奉汝かろへ多小神慮定み測がじと吐きさるり當下阿公の
 真務を引立とく海邊に歩みより且くは母秘文を唱やぐと
 海面に推向て數十丈なれば崖の上より突落るとする処を
 毛國丹走りよりて忙しく押とめ阿公お對よりアけるを夫
 神と哀愍を慮とし人々性命及びて奉とんされは生に活る
 りの孰う命れ惜うとぞれあるを今人をりて穢としその
 驗なれととこハその罪阿公がうみあり神その穢を受多むとハ
 何をりて其許の傍を補らんいと公りとはと詰問ふ阿公ハ半
 落るに齒をあらはして驟然とらちを去り吾儕六十及ふりあまで
 國の祀ふよりて神の慮ハよくありぬとぞれりて上國王より下士庶人
 小至まで公然として疑とぞある汝おん又穢を柱と公りとはしと

珠球とて
 不て海の
 林をまろふ
 ばは氣球幸
 暮ふらん
 一木ふ
 づつとるば
 事のものや
 るでし

宣つたいう母ぞや其処放多へといひも果とめり落ると焦燥者
 毛國丹ハなやとれとれ手放と又阿公おのめや此國開けをゆ
 くり君真物出現して禍福吉凶を示し人面ありこれをさる水神
 血食汝求むるの好むばなとて自親出現してその穢をとり去る
 且三十七の間切之十六の属嶋にづれう王土おあむる誰う王臣おあ
 るあるふとが君駕汝柱てこの海邊に到来多人も水神の體を
 頭してそのおのまに祭るの飲を述ぶるハをれり是正した神小あ
 きて五月蠅成邪神うづじ阿公よく神のさうたあハ目今兩三
 人の徒弟を遣して神をさるに迎ふるいと易かりる人汝達とく人
 やと罵もあふとばとらりらく侍とる二三人の生託女を忽地
 蹴りしる真逆とぬ小滾落と浪の底を沈むれば利勇とて

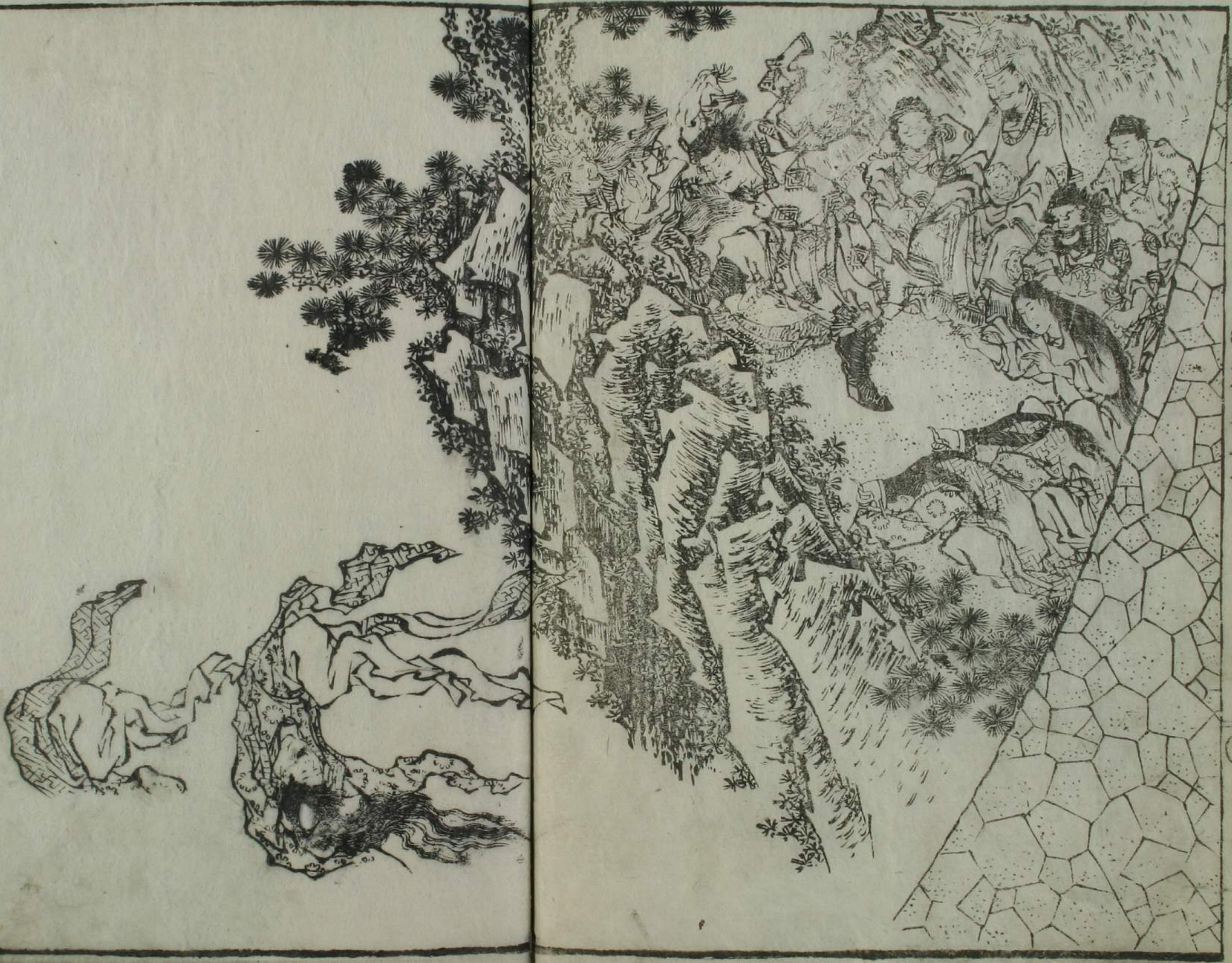
癡者されど。女流も死刑一等を寛め師身のため追放せざらん。
 亦ても彼が虬塚の神祈す一年中の吉凶を占るといふこと意にほね
 この後又嗚呼のものありて彼塚祈らば。いささか不思議をいひし
 て愚民を惑さんも量ぐじ。緯の叙ふれさうら彼山に攀登りて
 件の塚を發せしや。とちかなりと宣へば毛國丹又さういかり彼虬塚
 を往古天孫氏虬を伐す民の害を除く骨を高嶺の山頭に埋め石
 を建松を植く標としめられ古跡にして高嶺の一名は昔昔虬山と喚
 るともこの由あり。あられ小阿公が淳く一言を信じて虬塚を發せし
 りる。究めてよるれば。君王願くは徳を修め民を憐れん天の
 災を禳ひ多し。聖王の世に悪民は。君仁我をりて民小教あり。
 虬塚ありと之とも誰が阿公が讀を嗣く怪しむ行ひしといへたと理

を盡して諫さる。尚寧王はくぐとせて。まは良業其がくや何りけん
 彼を曉りてこれに曉らる。政を左右するら掉洪がいかとて。慮おと
 たり。淫祠と俗害あり。虬塚小何の神矣。あらん今これに發廢
 せん。後うらふは奸を助く。毒を流さぬ至るべし。まが既決せん。
 ぬらび練ることなれ。真鶴の命婦とて。彼を中城あおてり
 て。寧王女小給事させ。けの日もとや傾ね。翌又つとめて。舊虬山に
 登るべし。御等その旨意はよ。是彼小せえまじ。遂ま首里
 小海りまふ。かくて毛國丹ハ親雲上の武官亦。仰を傳く。阿公師身
 を追放し。真鶴を伴ひて。中城へ歸るあぞ。利勇ハ志なく謀成
 為損して。この中。小集燥とも。阿公次救んとせば。おのが伎倆乃
 幾顯ん。と所く。毛國丹と争ひ。阿公ハいと恨しげ。追ひを

毛國學
勇敢
真能
敢

春元月長月清

八



本誌の五月

られたり利勇次入之。若れを紙りし啞子のごとく。しりんとすれどいひ
かひく。只喃くと吐くのと。善悪邪正耐至りて。四條に分れ北谷に
孝女が績せく傳て。傳信録卷の四。昔北谷を流るるを漏溪。其惡
蛟あり。風雨を興して患をあたふ。王國中に令る童女が募。獲てし
これを祭る。小宜野灣に於て章氏の女兒真鶴と名づる。其募に應じ
身を捨てて母を養ふとせし。至孝を天神感應ありて。蛟を滅し害を
除。封爵を受く。と書ある世にこの事あり。その説大同小異の
つ。或ハ義本在位の時とて。いふ。何れは是るやと云ふ。

第三十六回

尚寧王腰輿高嶺に登れ
舊虬山の古墳塚雲が現る

却説尚寧王と毛國村が練成と云ふ。虬塚が發塵んとて。次の日又

前編小田
風山の麓茶
山のま登
ありと云
三才園會
小我まる
の圖説
傳信録
因て改正
諸の藤光
武田信玄
の嶋崎
入の徳録
これを辨
て云

利勇以下以下の近臣及び引後。高嶺を登りて。出まふ。そのも高嶺の間
切の總名あり。一名ハ舊虬山。その地山南省小島。一て首里の南
三里あり。東北ハ八頭山。其高く白雲翠微を遠る。向
ふハ山岩峯々。正南ハ蒼海杏渺とて。高浪却連山のこころ
直下小湍漲あり。林麓小二つの泉ありて。惠泉と呼び。芳泉と稱ふ。
泉のほとりに石橋あり。是を大里橋と号く。東南ハ又山あり。園
古山これあり。大城真栄里。其屋姑と云ふ。高嶺の属村
なり。羊腸と云ふ山路。けいけいハ風が拂ふ。其未の露を天におさ
まね。雨りと疑ひ。亦ちどこれ木下園ハ明も明ぬ夜陰も似たり。園任
の腰輿あり。太やうな綱を著。轎下ホもとて。組あし。登る
近臣と葛藤蔓。其推考して。喘く相従ふ。からりて。虬塚の

ほとりれたたり著。なみふたふれ樹下。か雲。か柱。居。く。文武の官人
 左右。か踏。踏。し。君臣。かのく。うち。仰。く。件。の塚。を。見。且。の鬚。松。天。を。な
 る。く。龍。蛇。の勢。あり。石。碣。地。に。埋。して。虎。豹。の。臥。せ。れ。が。ご。し。い。く
 星。霜。を。経。り。ち。ん。ん。る。人。を。して。寒。か。じ。ひ。寔。は。怪。有。の。古。塚。なり。
 その。と。れ。利。勇。ハ。夥。の。人。夫。ハ。指。揮。して。さ。り。く。発。け。と。い。そ。ぐ。び。ハ。人。夫。ホ
 ハ。て。さ。り。く。鋤。鉄。を。り。て。石。を。掘。起。さ。り。二。响。あ。ま。り。は。て。さ。り。やく。し。か
 石。碣。を。押。倒。し。亦。松。の。下。を。掘。穿。ふ。さ。り。く。茯苓。以。び。り。さ。か。じ。し。て
 深。一。丈。あ。ま。り。に。及。び。く。石。の。唐。櫃。ハ。掘。當。り。し。母。忽。然。と。して。物。の
 音。土。中。に。ま。え。玲。瓏。と。して。金。鈴。を。振。が。ご。し。こ。り。に。至。り。君。臣。大
 小。怪。ま。め。れ。ハ。何。ぞ。と。耳。に。側。て。怕。ま。さ。く。さ。じ。も。呪。詠。ハ。人。夫。ホ。ハ。鋤。鉄
 を。投。捨。つ。走。り。退。と。て。忙。然。と。り。浩。越。ハ。毛。國。將。と。君。王。と。諫。ん。と。て。

後。走。り。推。し。目。今。この。景。迹。を。ん。く。豊。の。は。さ。り。再。拜。伏。し。殿。下
 尚。寧。王。小。臣。ハ。諫。を。用。め。り。と。遂。に。この。虬。塚。を。發。せ。た。り。さ。り。か。れ
 怪。異。と。出。耳。あ。り。往。古。天。孫。氏。此。高。嶺。ハ。虬。塚。ハ。筑。也。又。小。琉。球
 一。名。大。島。母。赤。瀬。の。碑。を。立。す。妖。魔。を。鎮。め。ま。ひ。り。以。来。千。載。の。今。ホ。至
 る。り。ハ。國家。不。朽。の。古。蹟。と。り。あ。り。れ。を。故。り。葬。せ。ま。り。魔。が。走。り。し
 禍。を。醸。して。後。は。悔。も。及。び。ま。じ。只。この。侯。ホ。土。に。覆。ひ。舊。の。こと。く
 以。理。し。ま。る。古。塚。ハ。築。く。山。賊。の。所。行。り。孝。母。して。崇。ま。り。と。も。世。の。為
 其。益。な。り。民。の。為。ホ。害。あり。千。慮。の。一。失。歟。聖。断。その。意。を。ほ。ご。り。い。と
 理。以。掲。して。諫。し。く。尚。寧。王。中。後。悔。の。氣。色。也。と。志。し。黙。然。と。し。て
 在。る。れ。を。い。ひ。か。ひ。し。と。咳。れ。つ。利。勇。す。み。出。く。声。を。勵。し。毛。國。將。過
 言。り。り。君。を。り。て。山。賊。ハ。比。を。不。敬。の。罪。禁。め。ば。を。あ。れ。る。か。ご。し。

春八九月長門...



殿下もし土中の鈴の音不怖とす。櫃の蓋は開けられた。この儘に
 ちと止む。國民墮弱の君なりと母の海に。是よりして叛くりの
 ありおん一尺の上地も。不用の古塚も塞がる。國の費あり。これを
 多めこそ。賢王といふより。はうで。劍鏡の遺物。其奪入。其墓を
 發く。奸賊と日。同くして語る。猶豫し。其事。うの。と。あ。ご。み
 笑へ。尚寧王。こ。と。且。勵。されて。太。子。怒。り。毛。國。典。志。し。女。に。諫
 言して。君臣の。礼儀を。乱れ。不敬と。や。い。り。ん。を。礼。と。や。い。り。ん。其。處
 退。ぎ。や。と。い。れ。す。れ。あ。を。毛。國。典。は。る。は。面。に。犯。して。諫。ん。と。こ。る
 お。近。臣。こ。り。好。く。押。隔。さ。す。く。に。い。ひ。論。し。つ。遙。後。方。お。引。居。り。り。
 利。勇。は。れ。れ。お。ら。う。い。は。好。く。努。ひ。猛。く。人。夫。亦。以。催促。と。く。石。櫃。を
 掘。出。せ。と。指。揮。され。ども。人。夫。亦。は。怒。り。お。せ。く。互。に。面。に。あ。し。け。り。

遠巡して。まも。あ。が。り。利。勇。勸。勉。として。劍。を。引。提。王。車。鹽。て。ま。し。汝
 亦。し。何。れ。叛。く。お。ま。首。次。切。り。後。よ。の。穴。に。埋。ん。目。今。首。を。切。ら
 れ。と。土。中。の。櫃。を。引。揚。ると。何。う。尋。は。し。た。意。せ。よ。と。責。め。り。る。
 人。夫。亦。は。か。く。逼。り。て。せん。と。ぶ。お。太。子。麻。索。を。十。條。あ。せ。り。其
 縲。お。あ。り。て。櫃。を。縦。横。に。括。著。と。て。車。輦。り。て。卷。揚。ん。と。さ。る。ふ。其
 輕。れ。る。毛。の。ど。く。勞。せ。ば。して。引。お。と。に。金。鈴。の。音。は。な。は。鳴。り。止
 ども。この。石。の。唐。櫃。と。五。尺。四。面。に。して。重。さ。い。く。と。く。と。も。量。か。こ。こ
 を。輒。く。引。揚。られ。が。い。や。怪。し。と。く。怕。れ。る。蓋。を。開。く。も。は。利。勇
 の。形。勢。を。見。ん。と。太。子。怒。り。の。ど。も。ま。ど。て。躊。躇。せ。れ。蓋。を。開。と
 い。そ。が。れ。膽。太。に。壯。伎。八。九。人。ま。か。り。て。蓋。を。開。ん。と。て。石。櫃。お。と
 から。れ。む。忽。地。百。千。の。霹。靂。の。一。度。は。落。り。た。音。し。て。石。の。唐

櫃刮刺くくと碎花。その石八方へ散乱るるりしう。矢庭ふらけ
らうりの二三十人。手足折れ。膝を傷らふ。半身鮮血み塗られ
ざれはるし。こゝ正るまゝあふびとて。近臣おのゝ腰裏に守護。戟を
執り。箭矢推考とせよかくせよ。と散動あぞ。利勇の比。め勢ひ
脱す。茫然としくせんまをあふび。かくて君臣。やうやくに神を法め
暗次定めて。碎らば櫃次入るふ。一朵の叢雲。變態にして立昇
て。かうて地上次とらうと見え。奇なりけり。形。陸準。骨泣く異
人。香深の法衣の。膚断離。をを被る。手。あ。錯るる。金。終。と。松
りら。底石の上。目結。蹴。踏。せり。その骨相。眉。白く。脣。赤く。鼻。を
黄。丹。して。面。黒く。肌。青く。して。指。半。し。肉。脱。く。ハ。雪。の。松。の。骨。を。見
魯。垢。つ。れて。ハ。雨。の。竹。の。節。も。撓。り。人。う。と。見え。バ。人。あ。も。あ。は。鬼

とんれば鬼。あもあは。衆人。さうと。怪。と。こゝとも。い。う。あ。と。斗。り
に。う。ら。親。と。と。居。り。り。た。れ。時。あ。異。人。欠。伸。して。閉。く。れ。眼。を。濁。と。開
く。ふ。瞳。の。光。人。が。射。く。左。手。右。手。が。入。之。り。つ。
天公未生我 冥冥無所知 天公忽生我
生我復何為 無衣遺我寒 無食給我饑
還爾天公我 還我未生時
と吟じ果て呵く。とらら。笑へ。ハ。利。勇。サ。う。く。異。人。お。對。ひ。大。王。の。仰
あり。その。油。と。何。り。の。み。と。同。也。異。人。ハ。利。勇。に。意。せ。と。腰。裏。の。物。見
成。に。詛。れ。つ。ま。う。は。中。う。殿。下。怪。と。み。ふ。こ。好。れ。西。方。小。聖。人。あり。
よ。く。衆。生。を。濟。度。して。若。く。脱。樂。成。あ。ふ。ま。な。り。し。これ。を。傳。へ。一。号
亦。東。方。小。聖。人。あり。よ。く。凡。夫。を。哀。憐。して。福。を。授。禍。を。禳。め。死

て亡びしが故ふこれを神と称す亦中央に聖人のり。真を修め壽を保天地ごもに滅れ奉るし。さるりこれに仙と号へり。ご道この山中小塾りて。一万八千載成程これ小。天孫氏九五主。いさご君がたれた賢王とあふざりて。さば仁政國中に潤澤し。ごが出べり時至り。貧道當初天孫氏小約諾し。光を墳墓の中小瘞て。ながく虬の悪妻を壓鎮凡夫ハ只その虬塚に居るを知らず。實ハ神仙の窟るるはし。成覚らんと。殿下狐疑のこほなきて。驚く。信し。あつが貧道今より政を輔ん。さるる王の壽命天地ごもひ笑しく。國豊小民安うべし。かくハ験をえまへ。といひもあへ。囚縛あま呪文を念す。

庵毒 斐蛇 寧寧 叶莎 賀

と唱と石を打とく。作とる人夫さる。立地身成起し。手足お傷こもねく。本のてく。にさりみろ。尚寧王ハこの奇特をえん。忽地母信を起し。腰裏の内より蛇びき。感涙を拭ひ。あへ。救回異人を拜し。神仙ねがひ。これを捨て。教成無とよ。といひ。利勇を以下に近臣へさる。ねり。人夫さる。母至れ。或ハ呆。或ハ畏。首を叩く。信し。こなり。成さる。にり。り。れハ。往昔天孫氏國基を同じ。統天授世次嗣。あひ。九五代の今母當了。か。れ。神仙の出現し。あ。あ。これ。併。が。王。仁。政。の。い。さ。を。所。由。して。万民の洪福る。故。び。これ。母。さ。り。の。あ。し。と。祝。さ。ら。う。せ。る。尚寧王。滿。面。母。笑。を。令。け。く。又。異。人。に。對。ひ。神。仙。腰。裏。成。其。の。由。して。首。里。母。来。臨。あ。ま。し。清。淨。の。

土地をえりて道場を建立し住寺せし進らさべしとて叮嚀
お誘ひ異人改をうら掉く。これハ穢土火宅を厭ふがゆふ。この
山灰出るるを飲と王り求るるを招きまのりども一瞬
おふれべしとて推辞かば尚寧王只顧み稱嘖し山居のり
ハ。ともかくもこの海ふ似し人。いざご神仙の道号をえりて使
灰遣して安否を問んとされとん。何をりて稱とべとて問ハ異人
答く。貧道原来氏もねく。名もなれば霞が飲と雨を浴し。雲
をりて家とほし。又雲がりて駕とせん。おれハ今より矇雲と云は
ま人とまうらひめを。玉息改く。利勇ホ云ええり。卿ホ今より異人
を仰く。矇雲國師と云稱せよ。これハ毛國將が諫を用ひて
虬塚を發けしとん。この神仙小値遇せんや。さあめらびや。とほり

かに毛國將を尻目おろけ。又矇雲を拜しけり。おれども國將も
露むくも矇雲云々敬せと。只嘆息しておれが如し。この時日
影西小傾て山之暗くなりけられハ毛國將声云あり。殿下りけ
りて。かくておれ。そや暮るるとし。み路次の月もおぼつらほ
近習臣などておれえあげされと。おれハ矇雲も又いさ。この
処を山又山小繞とて。猛獸蛇蝎の患をれ。おれハもめらね。貴人
え。く。苗をまへ。か。貧道明日首里おありて。國恩を謝し
まうらひ。おれ。おれ。おれ。尚寧王ハ己ことハおれ。おれ。
矇雲。おれ。別を告。おれ。再會ハ契りけ。遂ハ腰裏ハ無ら。おれ。
近習里之子。親雲上。おれ。登之前。おれ。立後。おれ。後。おれ。人夫。おれ。も。おれ。
て。おれ。おれ。おれ。山を。おれ。下。おれ。利勇。おれ。ハ。おれ。少。おれ。引。おれ。下。おれ。て。おれ。おれ。矇雲



石橋
破
出

春
説
三
長
月
讀
音
辨
卷
之
三



本
説
三
長
月
讀
音
辨
卷
之
三

十
五

を伏拜之閃りと馬小蹄て。まづうみ後陣ふらうせけれ。その中も毛
國丹をどふ所あれハ山の半腹よりどろろえし。樹間を走遠り
ほ。半弓よ征矢矢刺ひ。前ごろけ量て。鬼ひあつに。嘘云々
る。何まもあがらば。舊の所小端にして。声細す。子讀経あつ毛國丹
ハこれかえん。竊小欲ひ。満月のてく。響固め。弦音高く。標と
發せ。怪しうおらう。と段みあこと折是。望明ハいこづ。よ。地上
小落く。ぬしハ真逆さ。ま小引付され。はしりよ。ま。れ。巔より。滾落
滾落と墮る。行よ。膝を搦傷り。胸を打昏。終々。叢の中ハあり。
この夕毛國丹が妻新垣と。夫のゆりまざる。不審と。奴隷二三
人を首里へ。とて遣さ。このりのども。嚮ハ國丹が。俱した。家隷
小行あ。高嶺の半腹。めて。主をえり。まひ。彼此を索る。はし。を。父

て。とてハ首里へハ。あり。ま。いと。是彼ら。う。れ。が。ら。高嶺を投て
ゆ。は。い。その山の麓。ある。叢の中。小。作。と。れ。人。あり。け。一。人
焦燥をあげて。これを。る。主の毛國丹。あり。じ。う。ば。こ。の。い。う。あ。と
う。ら。驚。馬。れ。慌。忙。つ。と。ま。り。も。に。扶。記。て。さ。ぬ。く。ハ。勅。と。ハ。國。丹
からやくに人。ら。ら。つ。れ。と。眼を睜。了。齒を切。悲。れ。た。よ。君。王。小。臣
が。諫。を用。ひ。ま。う。げ。漫。中。虬。塚。が。發。と。て。惡。魔。を。惹。出。し。人。も。る。は
是。を。唾。く。ふ。り。て。さ。る。信。志。ま。ふ。ん。を。洗。は。し。け。し。君。臣。既。よ。彼。妖。僧。ハ
魅。せ。れ。れ。と。ま。ハ。國。の。危。と。ま。累。れ。雞。卵。の。と。じ。朽。を。し。や。妖。僧
通。力。自。在。は。し。て。孤。忠。い。さ。げ。ら。る。と。な。り。ぬ。る。よ。と。と。り。ご。ら。忽。地
奴。隸。ホ。次。え。り。て。口。誹。誹。が。家。隸。脊。を。う。い。捺。り。ら。ら。れ。い。う。ま。在。ん
彼。ホ。お。ん。迎。ふ。ふ。り。ぬ。と。ら。み。毛。國。丹。ら。ち。息。死。な。れ。持。病。の。公。痛。死。り

く。ゆりりおきもこの処より日々暮ししなり。今とてやおこり果つ誘
 るべしとひくそを起し家味亦扶掖れて。因之の比及よし
 中城へ降りしが。落くる時小胸を打ち痛つしめて。寢食も生年
 づかた毛國丹が妻新垣のいと負つて女子なれば夫の病著ふ
 いといたうおひ苦しめて。次の日より。処々の拜林祈願しつ。琉球事
 まんえんとし神海月より処々の拜林云云。馬琴按ぶるも拜林の神社のこと
 ぬや。この神の出現も此処の神社を建おしをさうりたるべし。邦あま神社を
 別と讀しつるなり。やうあかあかしく樹を栽るのるれが。古今集も神社を
 をこのことしけんやうこそをてのいなきの森とあるらめ。社ハ日本の俗字也社本
 の二字をわいたり。かれが琉球國の神社を拜林とさき。醫師と毎日お
 へひ迎え。藥餌油断なく看病するほど十日あまりは行く。
 毛國丹が公痛平愈せり。よりて次の日中城殿へおりけり。寧王女
 廉夫人もぬくおび病劇し。とせつればいと公のとまきおひしを
 おひしよりい。さきおこりし。酒肉などな多り。首里の分野
 隈雲がるのみいし。母子眉根をよせまへば。毛國丹小藤とす
 免近曾街の童謡み

悪神來兮 海潮不清 悪神來兮 白沙化蠶

と唄へり是と云々。隈雲がるのみ小臣も死して。おこりし君王
 を諫めちるべしといふ。寧王女熟聽し。いな衆人既酔ね國丹
 ひとり醒るとして。諫言その詮なくおせし。けし強く諫むる者
 便宜をほく。いりる計寂はせんも量かじ。おくれハ君の爲もなる
 だ。その身冤枉死して妻子あいくその歎死をんをなす。不
 るふばや湯とりて沸火止ぬる。只後やうに禍を避て。
 倭人おこりに謀られざる。唯伎こそあまはりけしと説諭志す。

兼夫人も又さきみぐにのいふ所も。毛按司に不慮のさゆあり。は
王女ふへ何人う傳ちあり。何人をう便にさゆらん。思ひがたを堪忍が
か誠の忠臣さるべしとて。叮嚀ふまえ多ひか。毛國典嗟嘆して仰
らひまがりひひぬ。ぬる落安うれと。意まじしつや。げて首里へぞまゐる。

第三十七回

毛國典命を宣ふて。小琉球へ赴く
寧王女珠を捧て。龍宮城へ歸る

却説毛國典も。當日中城殿を退りて。直母王宮へまかり。病疾平
愈のはし。又まえあぐ。この時尚寧王と。龍宮城の正殿よ。利勇ホ以
下の親方按司を集合民の訟をまき。せしに。申は官薄。又掲と。
中城の按司毛國典も。あねり。さやういふぞ。それ召せと。仰と。まを
毛國典も。やくしく。陛をよりて。平伏と。尚寧王も。えそまゐりて。卿が

病もぬと。り果し。こまえ。いび。只今内官も。仰て。召さぬ。へりあり。ひ
ほふ。そやも。まね。事究。は。す。や。小琉球。なる。島北。より。訴
まう。ひ。さ。あり。その。故。赤瀬。の。碑。夜。ま。は。は。こ。人。の。泣。き。し。朝。お
こ。し。を。え。ま。の。碑。面。なる。婦。人。の。像。涙。痕。あり。と。り。御。も。ま。ま。る
ごとく。件。の。碑。ハ。祖。天。孫。氏。の。建。も。あ。と。こ。り。申。して。實。小。神。作。の。古
物。なり。さ。り。ふ。よ。り。て。先。代。頗。異。を。あ。い。し。時。の。吉。凶。示。せ。り。御
彼。所。あ。ら。と。て。緯。の。虚。実。を。弘。明。に。その。さ。ゆ。い。よ。く。実。古。又。う。は。古
例。を。ま。が。ひ。て。幣。帛。紙。進。し。祭。礼。を。執。行。へ。し。し。仔細。も。ま。え
あ。し。ま。へ。ハ。毛。國。典。領。首。ま。ま。う。い。申。す。殿。下。頃。日。街。頭。の
童。謡。を。ま。ま。り。つ。ん。足。彼。ま。ま。く。吉。祥。も。お。ほ。え。ら。れ。と。好
と。徳。小。勝。と。と。か。や。殿。下。り。その。不。祥。を。曉。と。天。命。と。お。し。れ

ありて奇好のありては、苛政を省れ、税斂を減く、よく
 俊徳を明はして善を勧め、惡を懲らしめり。妖怪立地お錯練して
 災言あり、化へくは、よく賢慮をめぐらされ、や、とまじし
 王宮で退出せしむ。中城殿おまわりて、寧王女、廉夫人は
 王命の茲を告せり。さて真滄母の命。其今日頃のおん使を
 うけまわりて、小琉球へ起行なり。彼処の海上八十餘里ことし、
 灘あり、れば、舟行三日おのち、あられは、ゆるり、ゆるり、
 日むりも過とせし、その間、おん珍珠、うま、王女のはり、
 として、よく給ひ、中婦君より進ませ、小果子餅、みんと、
 かけ、くすめ、さるべう、は、おん女子、な、忠、我の志、
 丈夫おも勝とる。此、み、ころ、おん秘、油、断、志、ふ、ると、
 叮、寧、は、教、諭、

次の日、舟出、して、小琉球へ赴、た、ぬ。さ、る、後、お、尚、寧、王、の、赤、瀬、の、碑、
 の、り、と、く、意、お、か、れ、か、ら、こ、れ、を、矇、雲、お、同、ん、と、お、ま、さ、る、小、矇、雲、
 忽然として、龍宮城、と、野、さ、る、り、お、前、お、ん、え、の、南、殿、お、ま、さ、る、王、こ、れ、
 を、え、く、且、怪、と、且、泣、び、し、ま、さ、る、發、言、せ、さ、り、さ、る、小、矇、雲、先、ま、ら、ひ、
 中、殿、下、赤、瀬、の、碑、の、り、と、く、怪、と、ま、さ、る、他、の、國、あ、て、は、か、れ、こ、こ、
 往、く、これ、あり、い、し、夏、桀、の、耐、崇、山、の、石、泣、て、山、を、走、ら、ひ、亦、生、公、
 石、集、て、虎、丘、お、説、法、と、れ、は、その、石、と、な、点、改、と、い、り、或、ハ、魏、掄、の、
 石、よ、く、り、の、い、し、周、庭、の、石、窮、民、を、達、せ、り、さ、る、に、怪、お、み、足、ら、ひ、
 て、も、な、ほ、公、り、と、お、く、と、い、ま、ら、る、琉、球、二、顆、の、珠、を、り、て、絛、襖、
 と、ま、ら、せ、か、い、尚、寧、王、速、お、諾、ひ、り、利、勇、が、中、城、へ、遣、
 か、利、勇、ハ、馬、の、足、搔、を、く、ち、め、つ、世、子、府、中、城、殿、お、ま、さ、り、寧、王、女、お、

御を侍々件珠を進ませ給へしといふ。王女ハ中ぐて真珠にて
 珠の管をとりあらし。廉夫人ももにこれを利勇は遍ふしあへ
 利勇左右の手を受捧て王女ふまらに申す。疑ひを申す。あはれ
 こと。このまゝあての押やつらば。封皮は披きてこそとて。はし
 王女もく封皮を剪。紐を解蓋を開く。見せまふに珠は口一顆
 ありたり。こはいりみ。と慌忙。二重の箱を曲みら。反し上袋を
 揮ひる。どしあに。廉夫人真珠はり。あもに周章し。主従宝
 走り入り。珠の隈おく。索れども。級々狂方へあれざりける。利勇
 この景迹をえて。潜水せむ。つと走り出。馬ふらち騎飛。こく
 小首里申馳入りて。緯の起代訴まう。さふ尚寧王女は。琉球
 二顆の珠ハ天孫氏より相兼して。國家に重宝とす。あはれ。尚寧王女

その一顆は失ひぬ。今日より後何をりて。位は修れ。金とせ。ん
 のじれ。越夜なり。卿ふら。び中城ハ馳向ひ。王女廉夫人をおて。且
 よ。と焦燥。あへ。利勇畏く。あ。び汗馬ハ鞭を鳴らし。中城殿
 へ馳ゆきて。夫庭ハ王女廉夫人を捕。張豊。あ。乗つ。給。は
 一顆の珠を携い。い。王宮へ。り。あ。中婦君ハ便宜
 を。と。び。廉夫人。と。王女。あ。と。海。押。隠
 たり。とい。せ。尚寧王。怒りて。遂ハ王女と廉夫人を。高
 嶺の麓。城の東。荒磯へ。配。は。し。ぬ。このと。中城殿へ
 給。せ。の。男女。あ。或ハ殺。或ハ追放。れ。す。れ。あ
 え。あ。その中。に。真。あ。あ。主。救。ひ。り。あ
 あ。あ。大。の。倒。んと。す。れ。あ。あ。一。木。の。柱。づ。れ。あ。あ

されハ意をなすも中城を脱去り。那覇の港に近き雪崎
 の浦家あり。潜りて。毛國典が宿り待ね。この時にも毛國典を
 小琉球へ使して。そのまゝ官され。利勇が奸智も。これを陥れ
 はしめて。恙なれり。さきも毛國典の寧王女の
 うへをとり。頻々紅人あり。往來九日。那覇
 の港口へ着ふ。真跡これ待つけ。如此く。告
 れ。國典も。あへど大驚。嗚呼。寧王女。稟性伶俐。あつても
 遂に禍を脱し。悪人。奸計。陥れ。ひねる。よと痛
 し。且歎。且怒。い。中城へ。入。とて。さ
 は。肺肝を摧。と。律。既。定。り。と。い。く。も。せ。ん。と。ん
 ず。憤。を。忍。び。く。首。里。系。止。し。赤。瀬。の。碑。の。り。洲。民。ホ。が。ま。ら。ん

小違。より。形。の。て。幣。帛。進。を。祭。祀。行。ひ。ゆ。と。せ。え
 あげ。忙。中。城。な。れ。お。の。が。茅。宅。お。ま。ゆ。り。腹。心。の。家。諫。亦。を。ま。ぐ。お
 打。粉。て。遠。外。お。王。女。の。配。所。を。守。護。せ。じ。又。密。に。真。跡。を。遣。す。
 王。女。母。子。の。衣。食。を。と。ま。つ。ま。か。ら。ん。調。を。近。せ。り。利。勇
 へ。く。た。び。王。女。廉。夫。人。を。人。を。れ。ど。う。し。ら。ん。と。て。公。を。人。
 か。ひ。その。際。以。窺。せ。に。終。便。を。ひ。して。い。ご。づ。り。二。年。始。り
 過。し。の。時。大。日。本。天。皇。近。浦。院。の。御。世。御。と。久。壽。二。年。鎮。西。八。郎
 為。朝。院。宣。ふ。と。曩。放。れ。鶴。の。往。方。索。ね。八。所。磯。紀。平。次
 只。一。人。を。招。く。遠。く。琉。球。國。に。推。渡。り。曩。雲。國。師。小。行。李。を。奪。は。し
 て。主。從。舊。虬。山。小。索。登。り。忽。地。驚。小。娘。落。て。廉。夫。人。を。介。抱。せ。り
 れ。と。づ。び。も。件。の。跡。を。追。く。大。お。飲。び。乳。母。子。須。藤。季。重。う。命。を

捨きたりひづれ。大蛇の珠を寧王女小ふかぎて肥後へゆりまうひぬ。紀平治が和を逐つて大洋を泗北鉄丸を獲たり。この時のふり。その前編第六回ふ。さじく見えしがこれ著けり。寧王女の侍。この條より前編五漏り。故よその本末と巨細おそつること。觀官事蹟の前後世と怪しみふこと。これ前も。ふも為朝の世家。三十餘年のめを録し。続編に至り。再び寧王女のふりやくしこと。より童蒙の爲よ。まじく自注を於ること。ありたり。間話休題寧王女廉夫人の喪ひつる珠をひく。ふく。ひく。眞持あり。これ縁由。城物がよりて。毛國典が告じ。まふ。國典歡喜火躍して。猛小王宮へ参上し。王女配処に於て。失はれ珠をひく。ひつる。はしをすえや。ねふ。尚寧王も。さことが。恩愛のやう。こ。ねて。二年。え。は。あ。つ。じ。

ねふ。らの折。中氣をあらはし。あつ。ハ。王女廉夫人を召還。さ。二。仰。さ。る。あ。ぞ。毛國典欣然として。その夜もさ。おん。迎。の。用意。を。い。じ。詰。且。驕。を。枉。駁。の。筑。登。之。を。お。く。配。所。小。赴。さ。王。女。侍。母。子。の。お。ん。供。あ。て。直。中。首。里。の。龍。宮。城。へ。冊。と。入。道。な。む。踏。次。の。警。固。見。物。の。群。集。起。せ。れ。ま。て。に。左。続。く。緯。の。為。体。欠。く。こ。え。え。ふ。れ。か。く。ハ。兼。城。の。配。処。より。之。里。よ。餘。る。道。程。を。知。さ。り。の。ま。ま。と。よ。い。そ。ぐ。ハ。徑。也。その。日。午。の。比。及。中。首。里。の。都。入。る。此。り。先。づ。つ。て。夕。え。し。ハ。尚。寧。王。ハ。法。司。按。司。紫。巾。官。の。大。臣。を。集。合。龍。宮。城。の。正。殿。ふ。干。て。寧。王。女。廉。夫。人。小。對。面。ありたり。當。下。寧。王。女。ハ。跨。小。易。く。為。朝。より。ひ。さ。す。珠。を。献。ず。尚。寧。王。これ。を。王。几。小。受。載。し。つ。失。て。あり。れ。一。顆。の。珠。と。押。並。熟。視。て。利。勇。亦。入。之。り。この。珠。異。小。失。く。る。りの。と。ふ。

卷之三 七三



龍宮城
珠を
砕く

見えおがら。まじ定らば證據なし。御ホいふ入つると同再打勇懐
をそめて。あじ珠をうち贖了。臣ホダ愚眼をへてそれの此度又王女の
進せざる珠も取ら似くくも。彼と足と比るふ些の青きあり。
よく鑿定あまほし。とりその言語いふをうらひ中婦君屏
風の後より遠り出く。尚寧王おちうらひ中。殿下り。珠の真偽以
あふんとおら。矇雲國師お同多。國師は道高く。権智不測の術あり。
かあらひ疑を決し多けんう。信がらて違ふ高嶺のさか伏拜り。且
て矇雲と云ふ駕。風再御飄く然と飛りて庭上おちり。王これを
えく。香火焼。さう起く高望のはよりに招請して珠のま偽
を同矇雲かうて。二顆の珠を。とんかうえく。冷笑ひ目今王女は贖
らし多。疑ふべくもあられ贖物なり。これ御覽せよ。一顆ハ潔白

みして一顆ハ青し青は帯くは蛇の珠なり。蛟の珠ハ打も碎も蛇
の珠ハ毀かじい。いでや試みゆんといひも果を如意をりて了くと
打後ハ青のハ一打めて微塵おなうて飛散り。王これをみて。慟
然と涙を流す。王女贖物とりてそれを欺く。その罪とえて免がじ。
こく傳めよ。といふはさめハ王女ハいひとく言語もあ。只季伏し
てゆき。あぞ。あまじ。あひ小廉夫人ハ。その恨をよ。小贖く。贖物と
あり。けい。い。いで漫お進。さ。それもあるは憎し。とあがさ。さ。ハ
を斬も殺しもあ。王女を放し。あひね。と後賄諾。あ。會釈も邪。
引勇ハつと列をこなれ。王女母子を引おらんとて。勢ハ猛く走り。鬼ハ
狐毛國推隔。信とあ。ま。某今一言あり。君命なり。さ。も。且。
と。り。て。衆。の。夫。聖。王。賢。臣。ハ。貨。を。り。て。貨。と。せ。と。只。ハ。と。

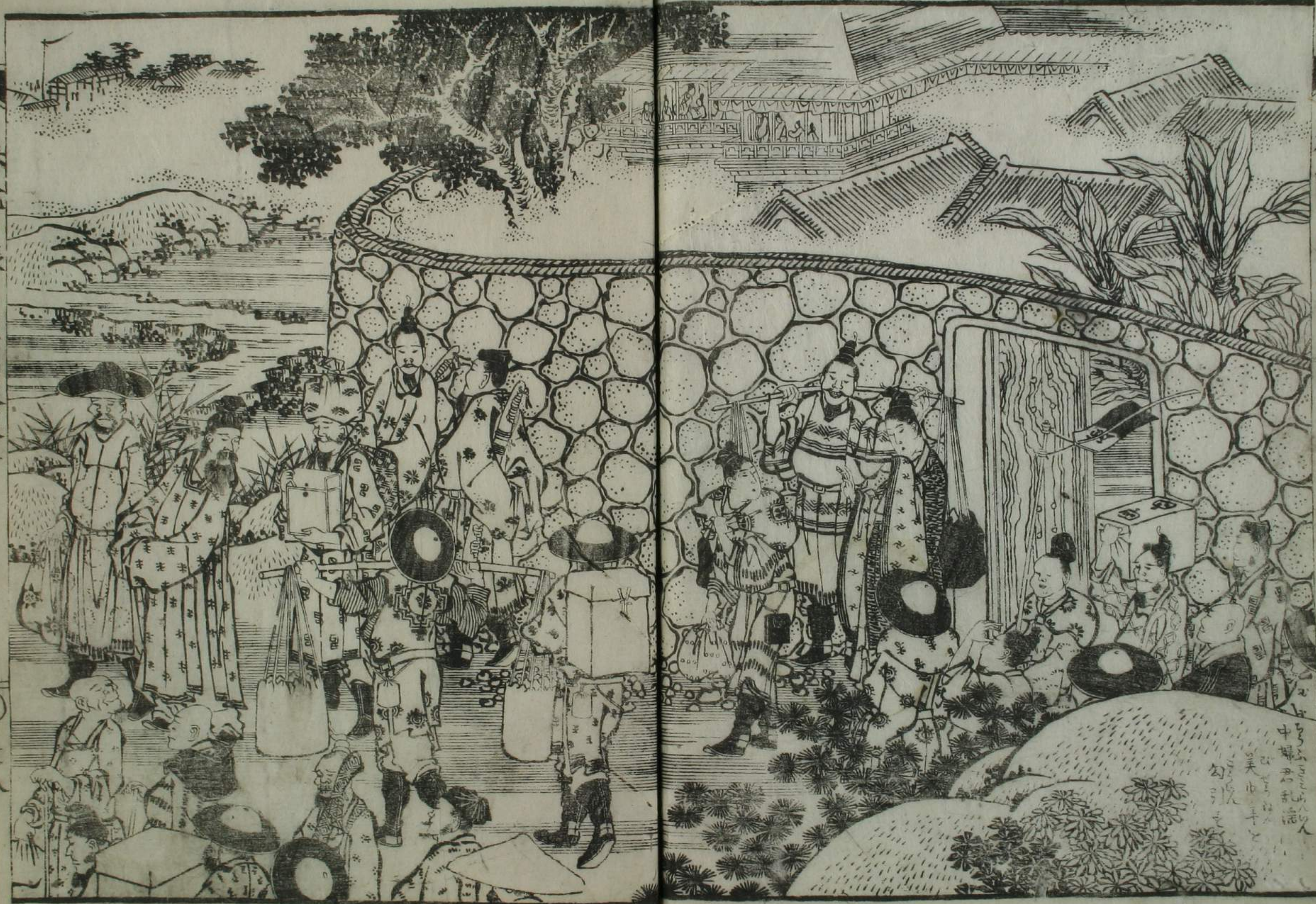
以て宝とて父あれば子あり。君はれは臣あり。父子と夫婦と君臣と
あててこれを三綱と号す。仁我れ智忠信孝悌の八のそのも三綱
正しければ行はば。父子相愛。君臣相責。夫婦相恨。てよく
邦家治るののこれあり。殿下今一顆の珠を惜て。世子を罪し
まの珠ありと。りとも。誰ある。修めらん。國の存亡を徳ありと。
珠のよきと。これあり。他日。叛逆の徒ありて。王宮お押さ
ハ殿下珠をりて戦せ。輒く冠を退めらんや。慈悲の聖断。只この
一挙あり。偏に免許の制度を廢幾と。怒る眼。涙を
含み。声高かり。諷諫と。そのしつ所理。なれば。王頻に嘆息して。矇雲
ふ對し。王女罪あり。これを誅せんや。お免さんや。と同。矇雲衣の袖
かた合し。父子の道ハ天性あり。よれあり。他人の中言。容

と。貴罰ハ君の法。ころ小あり。おん。志久もうせ。王女ハ足世子の
縦罪ありとも。刑戮人臣とお。おじ。か。べ。り。恩急。又捨て。法
を正しくせん。とな。今より。王女を廢して。別。世子を支。な。へ
貧道。つ。王女。相。お。才餘。あれ。徳薄し。その命運
人君と。ること。お。亦中。婦。君。相。さ。に。才。あり。て。徳。
二三年の間。あ。か。る。懐胎。あり。て。王子降誕。は。し。は。の。あり。
その時。小失。され。珠も。索。め。へ。ど。還。る。べ。と。幸。お。指。が。て。く
お。ま。ら。せ。く。王。ふ。く。欽。び。て。又。毛。國。冊。を。ら。く。ア。は。に。王。女。廉
夫人。が。罪。犯。け。り。と。い。へ。も。格。外。の。制度。を。り。て。これ。を。宥。め。被
ら。お。預。り。中。城。へ。お。て。り。て。閉。居。し。と。仰。され。ば。毛。國。冊
畏。く。泣。沈。み。ひ。と。れ。王。女。と。廉。夫人。を。扶。記。を。以。寧。王。女。の。命。

さかんに。アガガを責めて父王の母ん慈愛の有りごとく。忝し。母が
 おも再びあるはしぞなれ。王宮もけふを限りうと。いと名残のせし
 けし。立難多ふぞ理なる。かくて王女廉夫人の毛國將お誘引と
 中城へゆり多ひつ。配処に在る。あな。まんさもあれど。よろづに
 おの似せ。給るゆさるもの。ハ真跡が外も。さぐしなも。付ん。且々
 絶ぬりのさひふ。うち頻てぞ。せし。是より先中婦君ハ竊お
 利勇と謀し合し。只管小噂雲を信して。腹公の機密ハ憑
 こ。え。他るゆさ。これを欺待やどに。噂雲ハその身高山嶺ハあり
 まが。飛行して。常ハ首里に往ま。何よ。母のが欲と。さあ
 神通をうて。理なく棄ひとりま。けし。國王の師と。そのと
 異人。れ。宗を怕と。訴告りのも。し。是ハよりて。先王の台

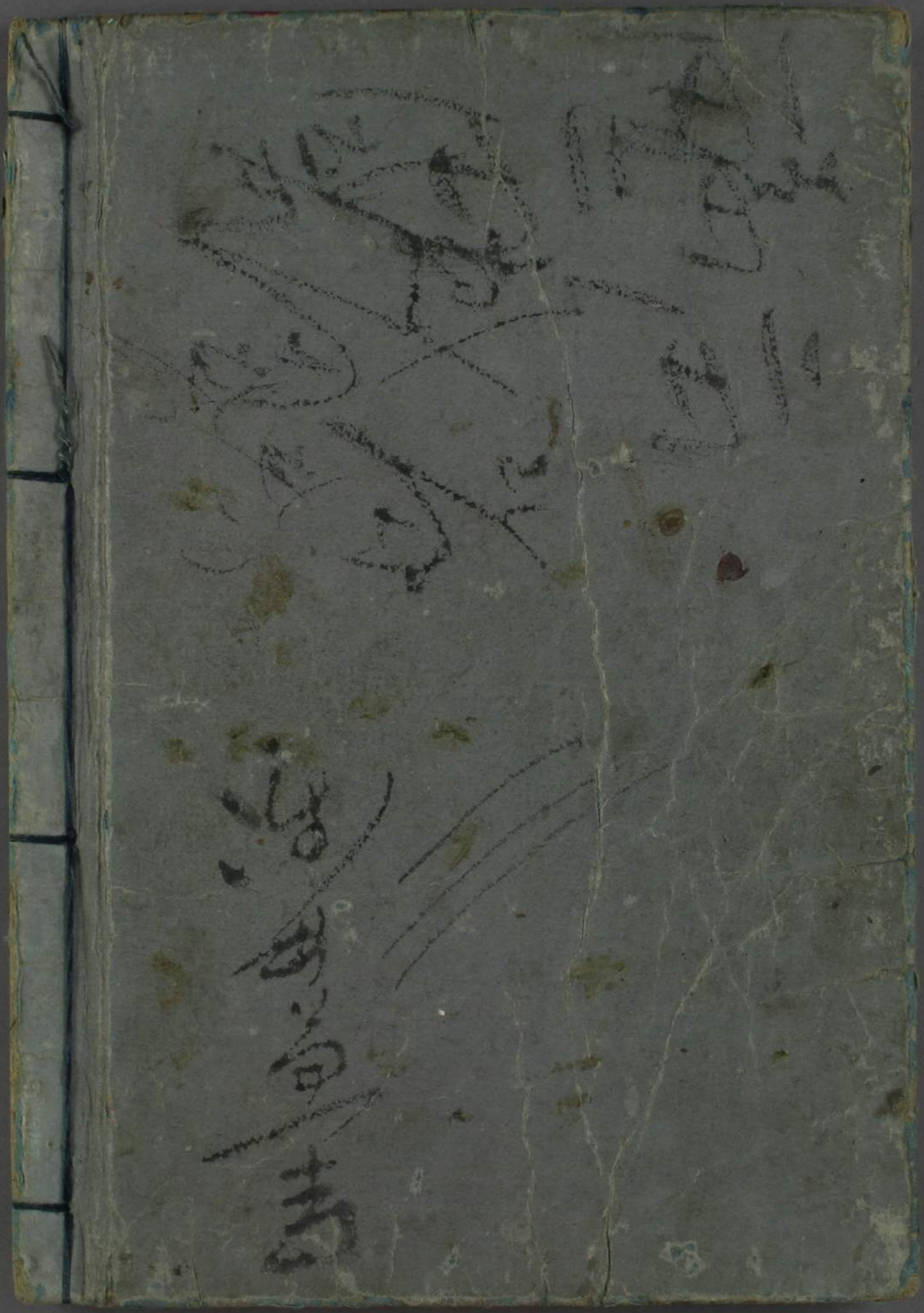
政。ま。と。く。荒。と。く。愆。を。含。む。の。い。と。ま。り。あ。ら。れ。お。中。婦。君。ハ。曩。也
 と。う。も。ば。も。寧。王。女。小。珠。を。う。し。ま。い。て。憎。し。と。あ。る。廉。夫。人。ハ。配。流
 人。と。な。し。と。れ。此。度。失。は。る。珠。を。索。ひ。く。件。の。母。子。ゆ。り。あ。は。し。父
 え。う。ぐ。さ。う。さ。う。お。款。ど。ゆ。さ。ひ。目。上。お。痛。の。お。あ。ら。ん。中。う。も。く。と
 せん。が。せん。と。さ。ひ。う。と。れ。お。その。珠。ハ。贖。物。ゆ。て。王。女。さ。さ。む。罪。を。お
 め。ひ。か。わ。この。便。宜。ハ。結。果。ん。の。成。と。て。噂。雲。ハ。注。目。せ。し。噂。雲。ハ
 その。意。を。お。ま。ぐ。却。て。王。女。と。廉。夫。人。を。救。ひ。て。恙。う。中。城。へ。か。へ。し
 ま。わ。せ。と。れ。ば。ふ。う。く。を。失。ひ。つ。傷。お。人。な。れ。折。を。さ。ん。と。噂。雲。は。ら。ら
 恨。三。國。師。と。ど。て。毛。國。將。お。方。人。して。王。女。母。子。ハ。敗。し。多。ひ。と。れ。豫。う
 憑。ま。え。し。み。いと。い。ひ。か。ひ。は。し。と。あ。ん。ど。と。ハ。噂。雲。莞。然。と。う。ら。ら。笑。て
 どの。所。あ。ら。ど。して。彼。母。子。を。救。う。べ。れ。や。寧。王。女。ハ。聰。明。啟。悟。ふ。し。と。

春月長月續卷之三



春月長月續卷之三

中
 美
 勾
 引
 之
 人



香齋集

子安著